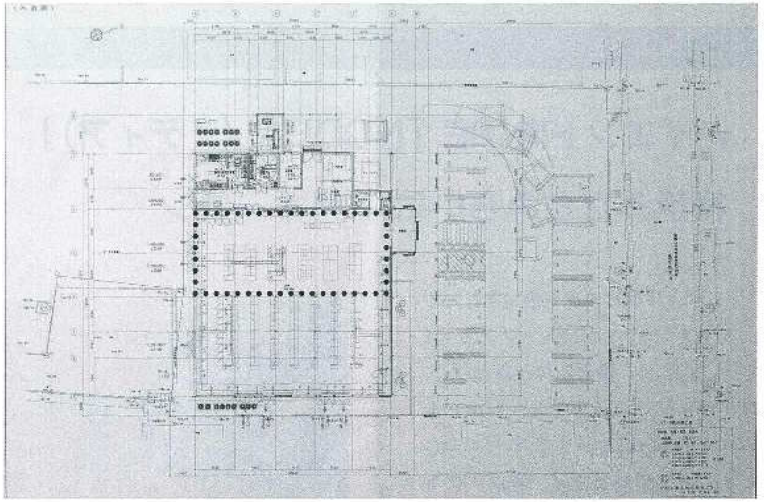
ニュース トピックス

小型食品スーパーでも木造建築 9m × 20 mの無柱空間を実現

スーパーマーケット「マックスバリュ（MaxValu）」を国内外で展開するイオングループの日本国内法人の一つであるマックスバリュ東海㈱（本社：静岡県浜松市東区、作道政昭社長）は、7月20日（木）、「マックスバリュエクスプレス小山須走店」（所在地：静岡県駿東郡小山町）をオープンした。直営売場面積396㎡の小型食品スーパーマーケットで、全体では236店舗目。同社では初となる木造建築であることから、本誌では㈲杉山一級建築設計事務所 代表の杉山宣之氏とポラテック富士㈱富士非住宅推進係望月宏真氏に話を聞いた。

見積もり段階では、木造と鉄骨造で同じ設計を行って、各事業者から相見積もりをとって比較した所、約50万円のコストアップとなった。建築費としては大きな差ではなく、鉄骨造よりも木造の方が、減価償却が短く（50年→30年）、税制上のメリットもあり、SDGsの推進という立場からも木造を採用することになった。

小山町が所有していた敷地は、元は旅館で、それ以前には、歴史的な民家の跡地であったことから、地中の遺跡の保存のため、基礎杭などによる深い掘削を行わず、地表から50cm以内の深さで掘削し、ベタ基礎とした。



平面図（点線の囲みが9m x 20 mの無柱空間）（図面提供）㈲杉山一級建築設計事務所

ボックス型のコンビニエンスストアの場合、折板屋根が一般的であるが、静岡県東部の同地域は深さ60cmの積雪地域であることから、雪下ろしのため、勾配をつけて切妻屋根で計画を立てた。

建物は県道から駐車場を置いて20m奥まった位置にある。内装制限にかからないように工夫して、天井の下に柱と梁を出すことができた。

完成後は、「木の匂いがしていい」と好評で、関係者共々、木造建築にして良かったと実感した。同様の小ぶりの店舗「エクスプレス」で、次の計画をしている。

商品棚のスペースには、棚の間隔に合わせて柱が入っている。売り場スペースは、柱間距離で約9 m（9100㎜）、梁せい660㎜の梁を飛ばし、長手方向で約9 m、短手方向で20 mの無柱空間とした。当初は約20mのトラスを検討していたが、建設コスト対策として商品棚エリアに柱を入れても良いことになった。

工期は約1年半。2022年の5月から構造計算を行った。解体工事などで長い工期を要したものの、木造建築は工期4カ月で完成した。

DATA

建物名：マックスバリュエクスプレス小山須走店
所在地：静岡県駿東郡小山町
設計：㈲杉山一級建築設計事務所
施工：日幸産業㈱
床面積：約650㎡（売り場床面積：534.43㎡）
木材使用量：約73㎥（うち国産材12㎥）
構造設計／プレカット：ポラテック富士㈱
土台：ヒノキKD
柱：レッドウッド集成
梁：レッドウッド集成（一部ベイマツ集成）
梁成：660㎜